

「中村さんの家計簿」が米国で、論文の資料になりました！

米国オレゴン大学院生ヒラリーさんは今、論題「女性の歴史と日本料理の歴史」で 200 ページの論文を書いています。1945 年～1964 年の時代の中で、〈第 1 章〉かなと経済、〈第 2 章〉家計簿の歴史、〈第 3 章〉家電製品、〈第 4 章〉日本料理の項目で、論文を発表するそうです。

国立女性会館に寄贈の“中村喜美子さんの家計簿”を見つけ、是非、中村さんにインタビューをしたいと申し出があり、7 月 5 日に湘南辻堂駅前店で、中村さんとヒラリーさんがお会いする機会を設けました。

☆[ヒラリーさんの紹介]

1986 年ラスベガスで生まれる。本名 Hillary Maxson。20 歳のネバダ大学生の時、広島大学に 1 年間留学をし、日本語を学ぶ。小さい頃から、日本語や日本の歴史に興味を持っていた。温泉が大好き。お米が大好き。和食（特にてんぷら）や小豆・抹茶・お好み焼きも好きだそうです。

谷崎潤一郎や村上春樹が好きな大学院生です。



☆[ヒラリーさんの家計簿論と家計簿への思い]

歴史的な資料として家計簿は日記みたい。家計簿を見るとその人の生活の一部がわかるようです。

また、歴史家が見たら、日本の家族の歴史を深く理解できると思う。家計簿をつける事は時間と努力は必要と思うので、つけている人達に憧れます。

将来、私も家計簿をつけてみたいと思います。



☆[中村さんとヒラリーさんとの会話から]

日本の“家計簿”の数値から日本料理の変化がわかる

との事。“家計簿”で、日本の歴史、また、日本女性の歴史（例えば、主婦参加の消費者運動など）が分かる。「中村さんの家計簿」に深く感銘し、また、中村さんも当時のことをヒラリーさんに熱く語らい、“家計簿”を通した楽しい話し合いの会になりました。

☆[家計簿くらし調査研究会のメンバーから]

「中村さんの家計簿」を資料にした論文が、米国で発表されるとの事。“家計簿”への関心が外国にも広がっていて、とてもうれしく思いました。

ヒラリーさんの論文から“家計簿”が、米国の人たちにどの様な反響を及ぼすのか？また、生活の中で、どの様な影響を与えるのか？など“家計簿”に対する米国の人たちの感想が楽しみです。